



栗橋地区

連絡先 栗橋にほんご会  
代表 宇津木 務  
☎ 0480-52-7809



鷺宮地区

連絡先 鷺宮国際交流協会  
代表 原 章貢  
☎ 080-1283-2584

ようこそ日本へ、外国人の皆さんは日本での生活を楽しんでいらしゃいますか。もし、日本での生活や習慣に不安を感じたら、栗橋にほんご会へいらしてください。日本人ボランティアが、日本語学習のお手伝いをします。又同じ国の人たちと出会って、楽しいおしゃべりの時間を過ごすことができますかも知れません。

場所 栗橋公民館  
(0480-52-10061)  
日時 火曜日 10時~12時  
土曜日 10時~12時

- (1) 対象者 国内に居住する外国人
- (2) 就学前児童の日本語会話指導
- (3) 小学校・中学校児童の日本語指導
- (4) 義務教育児童養育者への日本語指導
- (5) 長期・短期就労者の日本語指導

当協会は《海外の国々をもっと知ろう・海外の人々との交流を深めよう》との主旨で昭和六十二年に発足以来、二十九年間活動を継続しています。  
現在の会員数は九十七名です。  
主な活動としては、英会話講座を月三回、レベル別に五クラスで行っています。各クラスとも少人数構成で和気あいあいと勉強しています。

また、久喜市在住の外国人を対象に週二回、日本語教室を開催しています。日本語の会話・生活習慣の理解を深め、久喜市で少しでも快適に過ごせるよう、その手助けになればと継続しています。  
その他に外国の文化と暮らしを紹介する国際理解講座も行っています。  
さらに、年に一度、会員・英会話講師・日本語教室生徒とその家族・友人達が一堂に会するパーティを開き、交流を図っています。関心のある方はどうぞご参加ください。入会をお待ちしています。

平成 28 年 8 月 1 日 発行  
第 12 号  
編集：久喜市生涯学習推進部  
発行：久喜市教育委員会

# 久喜市生涯学習だより まなびすと久喜

今年の三月に刊行された「学びとは何か」の中で、著者・今井むつみ氏は「学び」とは単なる知識の習得や積み重ねではなく、すでにある知識からまったく新しい知識を生み出すことであると述べています。  
また、同書の副題には、「探求人」になるために」とあり、子どもを超一流の達人「探求人」に育てるために、親が行うべきシンプルな鉄則を挙げています（同書では2つですが、私なりに解釈してここではわかりやすく3つにわけて紹介します）。

① 「生きた知識」は、人に教えてもらうものではなく、自分で発見するものであるというように理解させる。  
② 様々な情報から筋道のある論理を構築する技量を、遊び感覚で繰り返し行っていくようにうまく誘導しながら、その過程そのものを子ども自身の身体に覚えこませる。  
③ 子育てをする親自身も、上述の鉄則を踏まえた探求人である必要がある。



久喜市教育委員会  
文化財保護課長兼学芸員  
堀内 謙一

## 『探求人』『まなびすと久喜』を育てるために

### 久喜市生涯学習施設紹介

★所在地 久喜市菖蒲町三箇 164-1  
★電話 0480(87)2616  
★アクセス JR宇都宮線・東武伊勢崎線 久喜駅西口から「菖蒲車庫」行きバス「菖蒲仲橋」下車徒歩15分  
★休館日 第2火曜日、年末年始  
★利用時間 9:00~21:00  
★施設概要 大プール(25m×17m、8コース)幼児用プール(13m×4m)ジャグジー、採暖室、ラウンドフィットネス



当プールは小さなお子様から高齢の方まで年間を通じて水に親しんでいただける施設です。愛称の「アクレ」は、「Aqua(水)」と「Refresh(元気になる)」をあわせたものであり、館内では、様々な水泳教室のほか、ラウンドフィットネスなども行っております。



★所在地 久喜市江面1616  
★電話 0480(21)3611  
★アクセス JR宇都宮線・東武伊勢崎線久喜駅西口からバスやタクシー利用徒歩の場合約30分  
★休館日 第1体育館 第4火曜日(祝日のときは、第3火曜日)、年末年始 第2体育館 第4水曜日(祝日のときは、その翌日)、年末年始  
★利用時間 9:00~21:00

第1体育館は、バドミントンコートが12面利用できる広さのメインアリーナと武道場・多目的ホール・トレーニング室等があり多種多様なスポーツでご利用いただいております。  
第2体育館は、卓球・バレーボール等の利用が多くアットホームな雰囲気皆様をお迎えしております。

### 第7回 生涯学習研修大会「まなびすとフォーラム」報告

テーマ：コミュニティ豊かなまち  
—まなび・ささえあう地域と学校—

☆開催日時：平成28年6月11日(土) 13:20~16:00  
☆開催場所：県立栗橋北彩高等学校 学生食堂  
☆主催：久喜市生涯学習推進会議、久喜市生涯学習推進部  
☆後援：久喜市教育委員会  
☆参加者数：212名(高校生~一般市民、教育関係者、PTA...等)



【グループ討議中の皆様】

今年も「まなびすとフォーラム」が栗橋北彩高等学校を会場に開催されました。多数の市民の皆様が集い、大会テーマを元に多彩な意見交換を実施しました。開会行事の後に10名程度のグループに分かれてディスカッションを行い、活発な意見が出されました。今年も高校生が多数(35名)参加されて、発表は高校生を中心に行われ、今後の久喜市の地域コミュニティの発展に向けた力強い想いが伝わりました。



【県立栗橋北彩高等学校】



【発表する高校生】



# 「久喜ゆかりの偉人」にスポットを当てる!!

「久喜ゆかりの偉人」……あなたは、何人ご存知ですか？  
どのような人を思い浮かべますか？

生涯学習だより第11号で紹介しました第6回生涯学習推進大会「まなびすと久喜」で、『久喜ゆかりの偉人』12人の展示コーナーが大変好評を博しました。

久喜市の発展は、先人たちの知恵とたゆまぬ努力、多くの汗の結晶から形成されています。これからの未来も先人たちから受け継がれた伝統や歴史、文化が脈々と息づき、誰もが「久喜に住んでよかった」と実感できる街、夢と希望がもてる街、発展する久喜市であり続けることを誰もが願っているところです。

『久喜ゆかりの偉人』を「まなびすと久喜」で展示しました12人に絞り、6人ずつ2回（第12号と第13号）にわたり紹介をしていきます。

「何（業績）をした人？」 「どこの人？」 「史跡は残っているの？」

『久喜ゆかりの偉人』の足跡をたどり、思いを馳せ、その人物を身近に感じていただきたいと思います。

是非、個人で、家族で、友達同士で偉人のその地に足を運んでみてはいかがでしょうか。

『神明神社]保護に尽力]

内藤 正成(ないとうまさなり)



主な経歴

- ☆1527～1602（75歳没）  
戦国時代から安土桃山時代の武将で内藤甚五左衛門忠郷の次男として生まれる。松平広忠の家臣となり、後に徳川家に仕えた。
- ☆家康の16神将の一人
- ☆1590年徳川家康が関東に移ったとき、武蔵国埼玉郡栢間村、戸賀崎村、新堀村、三箇村、小林村などに5000石を与えられた。

主な業績

- \*栢間村に陣屋（現在の栢間小学校付近）を構え同村に善宗寺を創建した。
- \*14代約280年にわたり歴代の内藤家により、神明神社は保護されてきた。

『教育者・遊歴の儒者] 菊池 菊城(きくちきくじょう)



主な経歴

- ☆1785～1864（79歳没）  
旧菖蒲町（現久喜市菖蒲町台）の豪農の長男として生まれる。
- ☆山本北山に儒学を学んだ後諸国を遊歴し、好んで寒村僻地で農民やその子弟を教授する。
- ☆深谷市渋沢宗助宅で本材精舎（塾）を開設。『日本資本主義の父』渋沢栄一も教え子の一人。

主な業績

- \*幼少から学問を好み、剣術にも長け、20才で江戸に出て山本北山に儒学を学んだ。その後諸国を遍歴し子弟を集めて学問を教えた。弟子数は3000人を超えたといわれる。
- \*晩年は、現在の町田市に私塾を開き、子弟を集め教授していた。当時名主を務めていた小島家に残る『小島家日記』によれば、菊池は論語を得意とし、性質は「豪放」、声は鐘のように大きくはっきりしていたという。
- \*菊池菊城は、幕末における庶民教育において、大きな功績を残した人物。

『久喜の教育の礎 教育者・漢学者] 中島 撫山(なかじまぶざん)



主な経歴

- ☆1829～1911（83歳没）  
東京亀戸で生まれる。墓所は光明寺（久喜本町）にある。
- ☆14歳の時、医者で亀田綾瀬の門人であった出井貞順に漢学の手ほどきを受け、その後亀田綾瀬・鶯谷父子に学ぶ。
- ☆久喜の所久喜の八幡神社の職を書き、久喜地域と初めて接触。6人の子と共に明治2年久喜に移り、甘棠院大門通り入口脇（久喜本町）に「幸魂教舎」を開く。

主な業績

- \*幸魂教舎で『詩経』『中庸』『論語』『孟子』といった漢文と『万葉集』『古事記』などの国文を教える。明治6年から40年間の門人の数は千数百人に及ぶ。
- \*明治・大正期のこの地域の行政・経済などで活躍した有力者はほとんど撫山の門下生であり「中島学校」を出ていないと社会的に認められないとさえ言われるほどであった。
- \*撫山は名誉や利益を求めず、時流に迎合することなく、塾生の教育を生涯の事業として全力を傾け、人々の品性を鍛え、教養を深めさせた力は計り知れない。
- \*撫山の息子「端」は、撫山の門下生「宮内翁助」（のちの衆議院議員）と中等教育機関「明倫館」を明治26年江面村に開校した。

『格調と端正、悲運の小説家] 中島 敦(なかじまあつし)



主な経歴

- ☆1909～1942（33歳没）  
東京都四谷区で生まれる。
- ☆中島撫山は祖父に当たる。敦が久喜に住んだのは6歳までの約5年。両親の離婚で、多くの門人を抱えていた漢学者・中島撫山の学塾兼自宅に預けられた。
- ☆中国の史実・古典に題材を求めた作品を書いたが夭折、死後再評価された。敦の死後、未亡人が息子と久喜に身を寄せたことから、ゆかりの人が多く。

主な業績

- \*「山月記」「李陵」「光と風と夢」などの作品がある。特に「山月記」は高校などの教科書に50年以上も採用されている。芥川賞候補にも挙げられた。敦の作品は、『己とは何か。生きるとは何か』を問いかけて、今も多くの人が抱える問いであることが、共感を得ている。
- \*狂言師、野村萬斎さんが構成・演出した現代劇「敦一山月記・名人伝一」が2015年6月に再演されるなど、今なお多くのファンがいる。
- \*作品を愛する人々でつくる「久喜・中島敦の会」の手で、敦ゆかりの地、祖父の居宅跡に記念碑が建てられている。リーフレットも市内の中学新入生に配布されている。